

今成: ん? なんだよいきなり。どこが変なんだよ?

積: 君, 今, 「整関数」を多項式で表される関数, つまり  $n$  次関数の意味で「整関数」って言っていなかった?

今成: おう。そうだ。

積: 「整関数」というのは正式な数学用語で, 「複素平面全体で正則, すなわち微分可能な関数」を指すんだよ。例えば,  $z$  を複素数として,

$$f(z) = a_n z^n + a_{n-1} z^{n-1} + \cdots + a_1 z + a_0 \quad (\text{係数は複素数})$$

はもちろんのこと,  $f(z) = \sin z$  や  $f(z) = \cos z$  も「整関数」って言うんだよ。

今成: そんなの知るかよ。だって, 参考書とかにも数 II の微分のことを「整関数の微分」と書いてあるのだからあるぜ。本によっては, タイトルに「整関数」って書いてあるのもあるけどな。

積: それは, その参考書を書いている人が勉強不足なだけ。今, 参考書なんて誰でも書ける時代だし。出版社によっては監修者だけ有名な先生の名前を借りておいて実際に書く人は別というものもあるくらいだから。

僕は,

- ① 名前のついていないものに名前をつけるのは自由  
(例: 予選決勝法, はさみうちの原理, 方向角など (これらは受験用語))
- ② すでに, 名前のついているものであっても, それに別の呼び方を与えるのも自由  
(例: 多項式を整式とも呼ぶ)

だと思ふ。でも, すでに意味を持っている言葉を別の意味で勝手に使うのは誤解を招き混乱させるからやめてほしいんだ。

るい: ええっと, それって, 例えば, 小学生くらいに

「すべての整数は 1 の倍数だから, 数『1』は, すべての整数の素になっているので『素数』と呼ぼう」

と勝手に呼んでそれを教えているのと同じかしらね。

積: その通り。でも確か「複素数」という名前の由来はそれに近いんだよ。複素数というのは, 1 という単位 (素) の実数倍の実数と  $i$  という単位 (素) の実数倍の純虚数の和であることから「複素数」と呼ばれるようになったのね。

月島: へえー。積君ってどうしてそんなに博学なの?

[今成君はつまらなそうな顔をしています。]

積: 別に、博学ではないよ。話を元に戻すけど、るいさんの例えの中の小学生は中学生になってから「素数」という用語を本来の意味で使われているのを聞いてきつと混乱するよね。だからよくないだよ。まあ、「素数」を知っている人は小学生にそんなこと教えないけどね。

るい: 教えられた小学生がかわいそうだわ。

積: だから、「整関数」の本来の定義を知っている人は決して多項式で表される関数を「整関数」なんて呼ばないんだ。呼ぶ人間はそれを知らない無知で幸せな人間なんだよ。僕は、そういう人は他にも用語を間違っていると思うよ。

れい: (今日の積君どうしたの? いつもより言いすぎて感じだけど。証先生がいなくなってから教室の雰囲気が悪くなっているのもその変でやめて!)

[今成君は少しずつムツとして、教室は険悪なムードになってきました。そのような気配に気づくことなく幸一君は質問しました。]

幸一: ねえねえ、積君。同じようなものってあるの?

積: 例えば、「三角不等式」もそうかなあ。本来、数学では「三角不等式」は、

$$|a+b| \leq |a| + |b| \quad (a, b \text{ は実数, または複素数})$$

とか、

$$|\vec{a} + \vec{b}| \leq |\vec{a}| + |\vec{b}|$$

を指す。ところが、数学 II で三角関数を含む方程式で  $\sin 2x + \cos x = 1$  のようなものを「三角方程式」などというので、同じように三角関数を含む不等式を「三角不等式」なんて呼んでいる本もあるよ。これもやめてほしいけど。

今成: 悪かったな。俺、それも呼んでるよ。

[積君は普段は口数が少ないのですが、間違っただけには黙っていらなくなるのがよくあります。他の人にはさんざん威張り散らす今成君ですが、積君にはかなわないことは自覚しているらしく、相当に悔しい思いをしました。]

今日は今成君がボコボコにされ、教室はますます重苦しい雰囲気に包まれていきました。